

# みんなを守る 受動喫煙対策

就業時間内・敷地内禁煙の必要性

## 受動喫煙対策 なぜ必要か？

### 非喫煙者と喫煙者の 健康を守るため

たばこの煙には、70種類以上の発がん性物質など多くの有害物質が含まれており、吸わない人がたばこの煙を吸う受動喫煙により、心筋梗塞や肺がんなどのリスクが上昇する。

受動喫煙をなくすことにより吸わない社員や喫煙場所を清掃する人の健康を守ることができる。

吸いにくい環境による喫煙本数減少や禁煙しやすくなることで、喫煙者の健康も守ることができる。

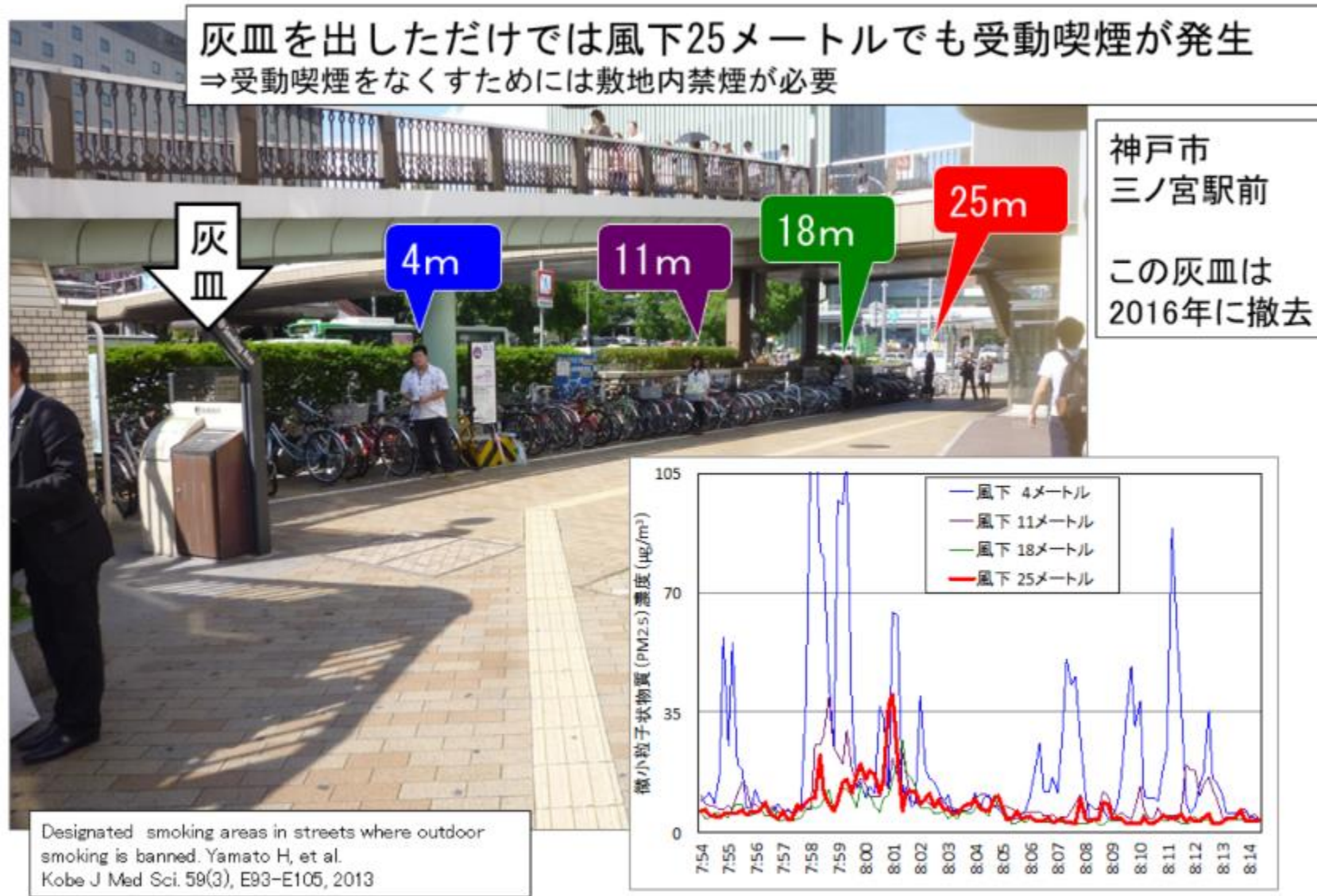




## 受動喫煙対策 屋外なら大丈夫？

### 屋外喫煙では 受動喫煙は防げない

たばこの煙は風により25メートル先にも届くため屋外でも敷地内に喫煙場所があると、受動喫煙は無くなる。さらに喫煙場所を清掃する人は、喫煙場所がどこでも受動喫煙が避けられない。受動喫煙を無くすためには敷地内禁煙が必要である。



(図は産業医科大学 大和 浩 教授作成スライドより引用)



## 受動喫煙対策

喫煙後45分周囲に曝露

## 喫煙後45分間は 有害物質が出続ける

喫煙後45分間は体内から有害物質が出続けることが分かっており、喫煙後45分以内に席に戻ると周囲に有害物質をまき散らす。

就業時間内禁煙は曝露を一定減らせても、昼休憩に喫煙できるとたばこ煙による健康リスクは残る。職場において吸わない人が、たばこ煙による被害を受けないためには敷地内禁煙が必要である。

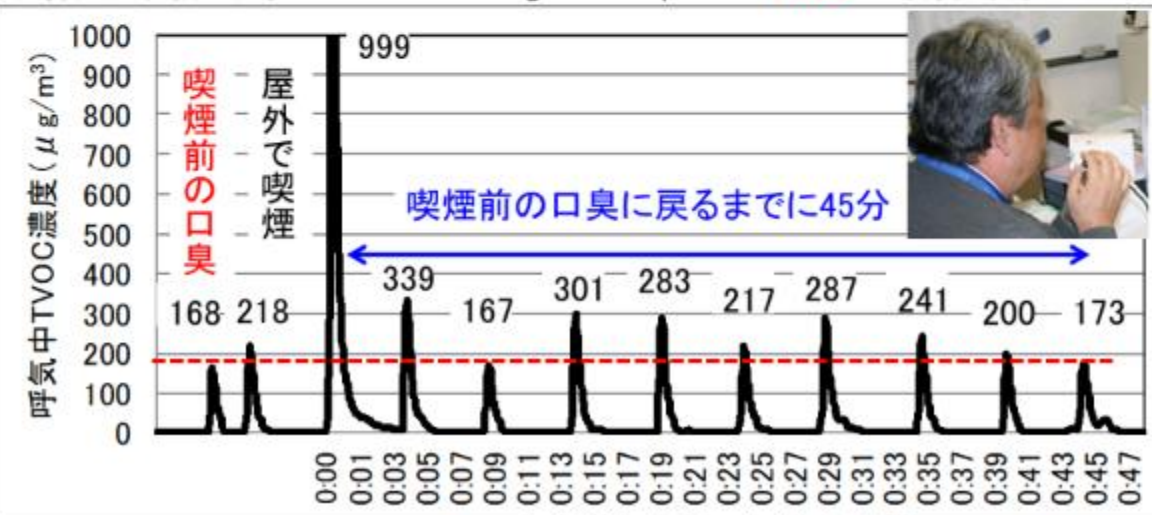
喫煙後45分間 エレベーターの利用禁止 奈良 生駒 NHKニュース



喫煙後の呼気タバコ臭い、戻るまでに45分必要。

喫煙前後の口臭をシックハウスビルディングの調査の指標である

総揮発性有機化合物 (Total Volatile Organic Compounds: TVOC) の濃度で評価



喫煙から戻った後の時間

(図は産業医科大学 大和 浩 教授作成スライドより引用)

## 受動喫煙対策 なぜ必要か？

### 非喫煙者と喫煙者の 不平等解消

非喫煙者は、たばこ休憩中でも働き喫煙者より長く働いても給料は変わらないうえ受動喫煙の被害を受けてきた。たばこ休憩による労働時間の損失、医療費増加、喫煙場所管理費用等で、喫煙者1人当たりの企業コストは年間69万円(シアトル大学ワイス博士の試算。1ドル150円で換算)であり、20歳から65歳まで吸い続けると3111万円になる。このコストによる会社利益減少を非喫煙者も負担してきた。就業時間内・敷地内禁煙により実就業時間の差や喫煙者だけが使う喫煙場所管理費用の存在などの不平等が軽減される。





## 受動喫煙対策

Q & A

### 喫煙する自由は？

最高裁の判決によれば「喫煙の自由は、あらゆる時、所において保障されなければならないものではなく喫煙の自由は制限に服しやすいもの」と理解されています。アルコール依存症患者であっても、社内及び昼休憩時を含む就業時間内の飲酒の自由は制限されています。他者危害である受動喫煙を避けられない以上、社内及び就業時間内に自由にたばこを吸う権利より、非喫煙者の健康を守ることが優先される。

### 吸えないイライラはどうする？

喫煙によるイライラ軽減効果は、ニコチン切れの離脱症状緩和に過ぎず、禁煙により離脱症状から解放されると精神的健康度も改善することが分かっており禁煙が最も有用です。

禁煙治療薬を用いると禁煙初期の離脱症状を軽減し、楽に禁煙することができます。



# Conclusion

- 受動喫煙は吸わない人に健康被害をもたらす
- 就業時間内禁煙は受動喫煙を減らす効果はあるが、  
完全になくすことはできない
- 受動喫煙を防ぐためには敷地内禁煙が必要である